

令和5年度

学校だより
令和6年1月10日

さつきが丘

1月号 第366号



子どもの話を「きく」

校長 仲川 由佳理

新年早々、様々な悲しい出来事が起こりました。被害に遭われた方々へ、心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年は、甲辰の年です。朝会でも、子どもたちに話をしました。万物が太陽の光を受け、成長著しくなる年であると言われていいます。さつきの子どもたちが、今年も健やかに成長する1年となりますよう願います。

昨年度、「こどもまんなか社会」の実現に向けて「子ども家庭庁」が設置されました。それに関連して、ある大学教授の言葉の中に、『まず、子どもの話をきく』という内容がありました。早速、様々な情報を調べてみると、次のようなことが伝えられていました。

5つの「きく」という漢字に込められた内容は、私たち大人が肝に銘じる言葉だと改めて感じました。

「聞く」…無意識に音が耳に入ってくる状態

「聴く」…耳と目と心で注意深く聴くこと

「訊く」…尋ねるという意味で、相手の考えを認知しようとする事

「利く」…その場に応じた適切な判断や決断が素早くできること

「効く」…効果的に働きかけること

教育に携わる人間だけでなく、接客に携わる方々もコミュニケーションを図る一つとして、「きく」という心構えについて公開されていました。改めて、目の前の子どもは、私たち大人に何を伝えたいのかをじっくり待ちながら「きく」姿勢が大切だと思いました。同時に、もっと子どもを「みる」ことも大切かもしれません。「みる」を漢字に表した場合の意味も、考えていきたいものです。

どうぞ、今年も保護者の皆様、地域の皆様と共に、心身ともに健全な子どもへと育てていきたいものです。よろしく願いいたします。